

TCSA NEWS

OPINION 添乗ほど素晴らしい商売はない!!

[夢の夢こそ]

私は夢を見ていた。X社の添乗員としてパリの凱旋門近くでお客様の帰りを待っていた。

日程表を見ると、2016年の春らしい。見回せば日本人観光客に同行している外国籍添乗員が目につく。子どもの数が減り、裕福な家庭の子女はIT関連か金融業界で汗をかかず金持ちになれる道を選ぶようになった。初老の添乗員の私は内心不安で一杯だ。まず、感情の行き違いから気難しいお客様を怒らせてしまった。通信技術が発達し、お客様の方が最新情報に詳しいことを失念していた。アンケートの結果、当分アサインされない可能性がある。また、ホテルのロビーで置き引きに遭い、日本大使館で旅券の再発給手続き中である。もし、間に合わなかったら航空運賃は自腹になるかもしれない、帰国便での添乗サービスを提供できないと、派遣先からも叱られること必至だ。しかし、私にどんな不手際があったのだろう。添乗は趣味や道楽でしている訳ではなく、生活がかかっている。もう一つの心配は言葉である。経験が長いだけの理由で海外添乗をしているが、仏語はもとより英語もアヤシイ。パリの移民ガイドは日本語ができない。先進国の労働環境はどこも似たものらしい。キリスト教文明や芸術、歴史の説明には異次元の用語が飛び交う。そんな時、ガイドの声が悪魔のささやきに聞こえる。

[契約社会はいつの日か]

まだ夢の中にいる。添乗派遣契約書を良く読んでおかなかったことを後悔した。添乗員の主たる任務は何だったのか。通訳は含まれていただろうか。土産物や小旅

行の販売も大切なことは分かるが、最も重要なのはお客様が安全で快適に旅行できるよう配慮することでなかったか。昨夜のワインの所為で記憶はアイマイだが、旅行業界だけ怨んでも仕方ない。法令遵守だ、裁判員制度だと騒いでも、所詮、日本は3割司法の国だ。倫理観も薄れた。相変わらず談合疑惑と天下りが無くならず、企業でも不祥事が後を絶たない。

[夢から醒めて]

現地事情に疎く、言葉も自由に操れない。人の心も読めない。困った私は、動き回り、汗を流すことにした。未明のホテルのコーヒーショップで食事に来られるお客様を迎え、ナイトショーから戻られる夜中の2時過ぎロビーに下りた。手荷物の運搬も手伝った。最後の晚餐でメニューを手にしたら仏語ではないか。電子辞書はプライドが許さない。脂汗が流れた。

そこで目が醒めた。お客様は旅の終りにお礼を言ってくれたらどうか。帰国後、もう一人の私は語学に取り組んだであろうか。外国の新しい資料を勉強したであろうか。

多分、お客様の感謝の言葉に魅せられて、再び腕章と名札を手にしたに違いない。人が好きで、好奇心が旺盛である限り、「有り難う」の一言に至福の気分を味わえる職業は添乗を措いて他にないから。



(株)阪急トラベルサポート 代表取締役社長
TCSA理事 中村 勝躬氏

CONTENTS

OPINION ————— 1

添乗ほど素晴らしい商売はない!!
(株)阪急トラベルサポート 代表取締役社長
TCSA理事 中村 勝躬

特集 ————— 2

平成18年度事業運営計画の基本項目
TCSA緊急課題解決アクションプラン

TOP INTERVIEW ————— 4

トラベル世界株式会社 代表取締役社長
今 真純氏をお訪ねして

TCSA REPORT ————— 6

ツアーエンダクター(旅の演出家)
オブ・ザ・イヤー創設

TCSA REPORT ————— 7

平成17年度「TCSA添乗員功績表彰」に礎さん受賞!!
2000日添乗員のコンコン奮闘記 ㊟

TCSAだより ————— 8

旅行会社向け“派遣添乗員のキモチ”を発行
会員動向 編集後記

平成18年度事業運営計画の基本項目

3月16日、正会員56社(うち委任状出席23社)が出席し、第20回通常総会が国土交通省橋本旅行振興課長を来賓に迎え開催されました。協会設立20周年の節目に際し、冒頭に山田会長から会員会社が健全な経営を行うためには様々な課題があるが、個々の会員会社だけでは限度があるので、協会を軸として会員が協力して一致団結することの重要性、更に旅行業法の改正を踏まえ制度が改定された協会研修事業の強化と会員会社の協力の依頼が述べられた。



1. 会員会社の円滑な事業運営に資する事業

- 1) 業界の直面する緊急課題解決のための「TCSAアクションプラン」の具体的活動の推進
- 2) 厚生労働省受託事業の活用による新しい業界雇用システムの構築
- 3) 「ツアーコンダクター職業フェア」の継続開催による募集活動への支援
- 4) 会員会社が要望する事業を各地域において会員会社による自主的開催への支援
- 5) 正会員への各種情報伝達、サービス機能の強化(派遣元責任者講習会受講料の協会補助制度等)

2. 添乗員のための事業

- 1) 添乗員の声を反映した実効性のある添乗業務ブラッシュアップ研修の実施(旅行医学講座等)及びJATA共催レベルアップ研修の継続開催
- 2) TCSA共済会の給付内容の充実及び加入促進による会員増強
- 3) TCSA20周年記念事業「ツアーコンダクター(旅の演出家)・オブ・ザ・イヤー」表彰制度の実施及び添乗員の社会的認知を高める施策
- 4) 添乗員能力資格認定試験制度を業界統一資格に向けての促進活動及び旅行業界資格のデスティネーションスペシャリスト制度への参画と資格取得促進
- 5) 各地区運輸局長表彰への体制整備と推薦、国土交通大臣表彰への可能性模索
- 6) 「添乗員相談室」の周知徹底と事例研究による改善促進
- 7) 「添乗員の日」の各地区自主開催の支援
- 8) 平成17年度実施「添乗労働実態及び職業意識調査」の結果を活かした添乗員労働環境改善への取り組み

3. 協会事業運営基盤の確立

- 1) 旅程管理研修登録機関としての今後への体制固め、研修内容の充実(受講者に望まれる環境づくり)
- 2) 派遣元責任者講習会主催団体として開催地、開催回数数の拡充による協会事業の柱づくり
- 3) 組織率アップに向けての正会員、賛助会員及び準会員の加入促進
- 4) 事務局内、及び研修関係業務効率化による経費削減策の推進、収支構造の改善

4. 業界団体として関係諸団体との連携強化

- 1) 「JATA・TCSA定例協議会」を活用した添乗派遣業界の活性化と地位の向上・JATA連携強化
- 2) 「添乗員労働問題研究会」まとめに基づく添乗員の労働環境改善のための諸施策の実施
- 3) 国土交通省所管部門、厚生労働省労働行政担当とのコミュニケーション促進及び支援依頼
- 4) コンプライアンス対策(主任者証発行・携帯徹底)無資格添乗員排除、個人情報保護法対策
- 5) ANTA会員会社との連携促進及び関係諸団体働きかけ、OTOAとの懇談会開催の検討

JATAが初めて添乗問題を重要な課題と位置づけ

添乗員問題検討部会の設置

JATA・TCSA定例協議会で2年間に亘り添乗に係る諸問題について協議してきた結果、添乗員問題は旅行会社にとって経営上の重要な課題と位置づけられた。当部会はJATA旅行業経営委員会から(株)ジェイティービー志賀典人常務取締役が部会長に、(株)阪急交通社佐藤隆男執行役員営業統括本部長が副部会長に選出され、専門添乗員を多用している旅行会社の部会メンバーとJATA事務局で構成されている。

5月31日に開催された第1回部会にはTCSA及びサービスツーリズム産業労働組合連合会がオブザーバーとして出席し、添乗を専門職とする人達の現状と課題及び処遇改善の必要性の理解を求め、緊急課題として厚生労働省へ添乗労働時間管理に関する考え方を示し、統一意見を求めていくことである、との認識が深められた。

TCSA緊急課題解決アクションプラン

(優秀な人材の確保と安定供給のために)

アクションプラン策定の背景

添乗を専門職とする人達を旅行会社に派遣する事業が法で認められ20年になる。昨年の旅行業法改正によりその必要性は一層高まっている。

しかしながら派遣添乗員の労働環境は、旅行商品の低廉化に伴う派遣料金の低下、顧客のニーズの多様化に伴う添乗員業務の負担増加、無理な日程による拘束時間の超過など、年々悪化してきているのが実態となっている。

業界を取り巻く様々な課題解決のためには、業界が自主的に行動を起こすべきことと、派遣先である旅行会社の理解と協力なしには解決し得ない両面を有しているが、業界団体であるJATAの協力を得て「JATA・TCSA定例協議会」を設置

して添乗問題に関する様々な課題を協議してきた。添乗労働時間管理に関して各地の労基署から改善指摘を受けていた事項については、協議会のワーキンググループとして、労働組合の参加も得て「添乗員労働問題研究会」を設置し業界としての考え方を審議してきた。

審議の過程において、協議会は各種課題を解決するための環境づくりは行うものの、TCSA及び会員会社が解決のための具体策に基づいて自主的に行動を起こさなければ解決の糸口は見つからないという結論に達した。

昨年に引き続き本年度以降推進していく事項は次のとおりである。

1 TCSAが業界内で自主的に実施する事項

- 1) 会員会社内調査の実施(旅行会社に要望するための定着率・管理比率・顧客アンケート等)
- 2) 正会員会社統一行動指針の策定(不当販売の禁止・最低賃金の死守・課題共通認識の醸成)
- 3) 応募者増加への派遣添乗員の処遇全般の改善(待遇改善・業務改善・環境改善・地位の向上)

2 旅行会社に対して要望していく事項

- 1) 昨年の日帰りバスツアー添乗環境改善申し入れ等に引き続き、添乗付加業務の明確化と支給促進。
- 2) 各地区旅行会社への働きかけ(TCSA地区協議会による地域JATA支部への理解促進運動展開)
- 3) 労働組合団体に対する理解促進(サービス連合との連携による加盟単組への働きかけ依頼)
- 4) 旅行会社従業員へのアピール(業界紙意見広告、添乗員問題公開シンポジウム実施、業界各種イベント参画)

3 一般消費者及び行政に対する実施事項

- 1) 添乗員労働問題研究会による業界統一見解(厚生労働省本省への3者連名文書答申、通達発令依頼)
- 2) 添乗員派遣業の特殊性への理解促進(厚生労働省職業安定局への派遣法上の手続き書式簡素化働きかけ)
- 3) 添乗サービスが対価を伴う事への理解促進(旅行客用配布パンフレット作成、一般紙への意見広告)
- 4) ツアーコンダクターブランド化の推進(旅行業界共通添乗員ランク資格制度の設置による添乗員能力評価標準化)

4 その他派遣添乗員の地位の向上のための施策

- 1) 派遣添乗員・TCSAの名称変更検討(呼称変更によるイメージアップ作戦(派遣)添乗)・協会名も同時に検討)
- 2) 派遣添乗員モチベーションアップ(ツアーコンダクター対象の各種イベント・表彰制度の新設)

トラベル世界株式会社

代表取締役社長 今 真純氏

街路樹の新緑が美しい五月晴れの金曜日、ホテルオークラに程近い一等地のオフィスビルにある本社に今社長をお訪ねいたしました。



三橋専務(以下三橋) 確か一昨年末に賛助会員として協会にご入会いただきましたが、今社長はお見受けしましたところ大変お若いのですが、最近事業を継承されましたのでしょうか。

今社長(以下今) ええ。学校卒業後欧州のツアーオペレーターに勤務しておまして、英国勤務などを経てから7年前に当社に入社し、2年前に2代目社長として就任いたしました。

三橋 ご就任前後というと、まさに海外旅行の激動の時期でさぞかしご苦労なさいましたでしょうね。

今 9.11やSARSの影響もあり大変苦しい時でした。その後もイラク戦争等により厳しい状況は続いておりますが、当社は小回りが利き即効性を発揮できる利点を備えています。取扱地域は国内情勢で左右される国が多いのですが、状況を見極めて造成を行います。例えばイスラエルのツアーなどはパレスチナ合意から3ヵ月後には実現しました。これは先代からの伝統で、現地に必ず赴いてから実情を反映し、先行して商品化を図るということです。極端な例では1ヶ月で商品を造成したこともあります。



全取扱商品社員添乗員同行ツアーが社の伝統的政策

三橋 御社は秘境や特殊地域へのご旅行が主流で、全商品エスコートツアーと伺っておりますが、社長のご方針でいらっしゃいますか。

今 当社も創立30周年を迎えておりますが、社員の添乗員同行ツアーは創業以来の基本方針で、空港センディングも社員が行っています。旅行商品は一般的な方面もありますが、当社の特徴として特殊地域と言われるアフリカ、中近東なども多く企画しています。最近ではアルジェリア、シルクロード方面などに力を入れています。

三橋 新しい destinations の開発はどのようになさっておられるのですか。

今 わが社の添乗員からの生の声も取り入れ添乗員の特徴を生かしたツアーの造成も行っていますが、私自身も年に4~5回現地に出向き、新しい訪問地を開発しています。特殊地域は一般的に治安が悪いと考えられますが、観光地に関しては問題が無いことを自分自身が必ず安全確認してから商品企画をしています。方面と共にわが社の特徴として、全ての商品の最大参加人員を20名に抑えていることです。これは同行した添乗員の目が全てのお客様に行き届き、気持ち良く旅行していただくよう配慮するためです。その結果お客様の7割がリピーターです。

またお客様には高齢の方も多く、特に辺境の地が中心なことから病気や事故の対応には万全を期しています。

三橋 旅行のピーク時には派遣会社もご利用になられるのですか。

今 TCSAには申し訳ありませんが、現在は全て自社で賄っています。エスコート専門の社員が東京、大阪で約20名在籍し、その他40名強の社員も役員を除き必ず年に1~2回は添乗業務につきます。GWや年末年始などは役員のみで殆ど出払っているのが現状です。私自身もチャーターなどにはチーフとして添乗することもあります。添乗専門社員の8割は女性ですが、秘境や辺境の地への添乗などは荷物運搬の関係もあり男性添乗員が欲しいこともあります。

■ 他社の追隨を許さない、 現地事情に精通した独自の企画で勝負

三橋 お客様の募集はどのような方法をとっていらっしゃるのですか。

今 募集に関しては、代売は一切行っていず、当社が隔月で3万部発行している旅行情報誌「Flying Rabbit」や年に2回発行する「地球旅物語」のカタログによるリピーターへの通信販売が大半です。最近ではネットでの販売も増えつつあります。現地取材や編集は全て社員の手作りで、使用している写真も殆ど前社長のオーナーと私が撮影したものです。一般的なツアーですと価格に目がいきますが、当社のツアーは独自の商品づくりで他社には真似のできない一本ごとに思いを込めた商品を提供



しているという自負があり、企画が勝負であると確信しています。例えば現在16名限定で募集を行っている「西安～イスタンブール・シルクロード15,000キロ完全走破64日間」などは全日程現地専属医師同行と行程中2回の日本人看護師による診察、添乗員も3交替でサービスを行います。行程中に作家の立松和平氏の講演も現地で計画されています。また、最近週刊朝日の「シルクロード紀行」などに取材協力をして商品化も行っています。更に商品説明会なども単に会議室でなく、大使館や政観などの協力を得て、大使館などで演奏会なども併せて実施し、好評を得ています。また、訪問国の郷土料理レストランなども貸し切って行うこともあり、出発前から現地ムードを味わっていただくことなども試みています。常にパイオニアたらんと心がけています。

■ 今後更に必要性が増す 添乗サービスの専門特化

三橋 リピーターとして参加されるお客様も段々年をとられるわけですが、秘境ツアーの将来についてはどのようにお考えですか。

今 確かに個人旅行も増加していますが、世界には個人では行きにくい国々や方面も沢山あります。今後も添乗員の同行するツアーは必要性があり衰退することは無いと思います。添乗員の役割は当社の商品にとって大変重要です。当社は現在105カ国を取り扱っていますが、最近はお客様のほうがその地の知識、文化に造詣が深いことが多々ありますので、

今後は添乗員に更に専門特化をしていき、各々の地域特有の専門性を育てていきたいと考えています。

三橋 社長はご自身で添乗や商品企画をなさることからいろいろご旅行をなさっていらっしゃると思いますが、社長ご自身が感動された旅について伺いたいのですが。今 自分自身各方面に旅行をしていますので沢山ありますが、添乗で行った中ではサウジアラビアでの経験が忘れられません。ご承知のように同国はなかなか行きにくい場所ですが、典型的なイスラム教の世界で戒律の厳しい閉鎖的な国です。お客様は女性の参加も出来ませんが、添乗員は原則として男性に限られます。女性の参加客は日中は“アバヤ”という黒いベールの着用が義務づけられています。現地では一般的な観光地以外の場所に入出入りすることは難しいのですが、あるツアーでお客様の希望もあり一般家庭を訪問できる機会がありました。実際に訪問してその家の女性と話すことが出来ましたが、想像に反して戒律の厳しいアラブ社会の女性でも海外に行きたいなど外に向けて夢を持っている姿は西洋的な考え方であるのに驚くと共に感動を覚えました。やはり現地に飛び込んでみないと実情はつかめないと実感いたしました。民間外交のためにはどんどん観光客が行くべきだと思います。

三橋 最後になりますが、協会に対して何かご要望はございますでしょうか。

今 現在のところ自社添乗員のみですので、協会の活動は残念ながら余り知りませんでした。添乗を専門職とするプロの添乗員を育成する役割を担っている協会ですから、添乗員の研修等も一般的な有名観光地に限らず、



辺境の地なども教育できる環境づくりを行い、大手旅行会社も特殊地域の商品化に取り組んでいくことを望みます。それが渡航者数の増加に繋がり、全体の活性化が図れるのではないのでしょうか。

三橋 本日はありがとうございました。これからも賛助会員として協会のご支援をいただくと共に、素晴らしい旅行を創っていただくよう願っています。



付加価値の高いお客様の満足を追求する妥協を許さない商品企画に情熱を燃やしていらっしゃる今社長のお話を伺って、専門特化したかつての旅行会社らしい姿に久しぶりに触れた感じがいたしました。



“ ツアーコンダクター(旅の演出家)オブ・ザ・イヤー ” 創設 2006年

旅行に同行してお客様のお世話をするツアーコンダクターは、顧客満足を引き出す旅の演出家として総仕上げを行う重要な役目を担っていることから、優秀なツアーコンダクターの安定的かつ継続的な確保は旅行業界にとって大変重要な課題です。

日頃黒子としてお客様のお世話をする立場のツアーコンダクターの方々が、誇りを持って働き、プロのツアーコンダクター全体のモチベーションアップを図るとともに、添乗を専門職とする人達に希望と光を与えることを目的として2006年から新しい表彰制度を創設し、その栄誉を称えることといたします。

主催

“ ツアーコンダクター(旅の演出家)オブ・ザ・イヤー ” 実行委員会

後援

国土交通省・(社)日本旅行業協会・(社)全国旅行業協会・(社)日本ツーリズム産業
団体連合会・(社)日本海外ツアーオペレーター協会・(社)日本添乗サービス協会

協賛

(株)トラベルジャーナル・大塚製薬(株)

推薦者

旅行会社および添乗員派遣会社

候補者

2005年4月～2006年3月の間、国内・海外の添乗通算日数100日以上従事し、
表彰に値する功績を有するとともに、ツアーコンダクターの模範として多大な貢献を行った者

表彰

“ ツアーコンダクター(旅の演出家)オブ・ザ・イヤー賞 ” 若干名
(9月に開催されるJATA世界旅行博会場にて表彰式実施予定)

選考委員会

吉村 作治	選考委員長・早稲田大学客員 教授
大西 珠枝	国土交通省 大臣官房審議官(観光担当)
船山 龍二	(社)日本ツーリズム産業団体連合会 会長
千野 境子	産経新聞社 論説委員長
石山 醇	(社)日本旅行業協会 理事・事務局長
菊間 潤吾	JATA世界旅行博運営委員会 委員長
清水 誠	中村学園大学短期大学部 教授
田川 博己	(株)ジェイティービー 専務取締役
森谷 哲也	(株)トラベルジャーナル 代表取締役会長
山田 学	(有)海外旅行総合研究所 代表
山田 隆英	(社)日本添乗サービス協会 会長

印は実行委員会委員兼任

応募締切

2006年6月16日(金)

平成17年度「TCSA添乗員功績表彰」に碓さん受賞!!

今回受賞されたのは、(株)ジャッツ関西所属の碓令子さんで、平成8年に表彰制度が制定されてから5人目の受賞であった。碓さんは平成17年4月の欧州旅行添乗中、景勝地モンサンミッシェルに向かうパリ郊外の高速道路においてバス横転の重大事故に遭遇した。日本人観光客14名に添乗員を加えた団体の、死者2名、重傷者2名、軽傷者11名という大惨事であった。碓さんも自身も全身打撲頸椎損傷という負傷を負ったにも拘らず、負傷者や現地警察、現地病院、大使館等への対応は適切かつスピーディーであり、お客様からその働きに対し賞賛と絶大な信頼を得た。碓さんの添乗日数通算4125日という経験がこのような大事故対応でも



活かされ、添乗員の模範となる行為であると2月に開催された理事会で満場一致で承認された。

表彰式は3月16日に開催された第20回TCSA通常総会の席上行われた。事故後1年近く経過したにも拘らず後遺症に苦しむ碓さんが、(株)ジャッツ関西の芦原執行役員に付き添われて姿を現し、山田会長から表彰状と記念品の授与の後、碓さんから謝辞が述べられると、総会出席者全員から賞賛の暖かい拍手が寄せられた。

2000日添乗員の「コッコッ」奮闘記

連載 ㉓



(株)TEI
福田 幸子さん

(平成17年度TCSA永年勤続表彰受賞者)

「健全な国民生活」には程遠い 永年勤続表彰添乗員のひとり言

月日が過ぎるのは本当に早く、昭和から始めて平成の年号に替わった今、通算添乗年数を聞かれても直ぐに答えら

れないのが正直なところです。

最初の頃は毎回初めての行き先ばかりで本当に辛かったことを覚えています。それでも添乗を辞めなかったのは、この仕事、不思議に悪いことの後に良いことも来るので、それで帳尻が合い、目に見えない何かに守られている神がかり的要素をよく体験したからです。日頃の精進も大切ですね。外国人の“イイ加減さ”に迷惑する時もありますが、その“イイ加減さ”で難を乗り越えられた時もあり、やりがいだけではない何かを感じて、又それが魅力で今日まで続けられたようです。

諸々の体験を思い出そうとしても沢山ありすぎて忘れていかないと次が頭に入らないのが実情です。

今となっては添乗しか私に出来る仕事はありませんが、長い添乗生活の中で一番辛かったのは、テロや戦争及びバブルが弾けて仕事の絶対量が減り、なかなか添乗の仕事が廻ってこなかった時です。先輩方に廻す分さえ不足し、下っ端の私は国内添乗やイ

ンパウンドの手伝いで細々乗り越えましたが、憲法の定める「健全な国民生活を送る」までには現在も至っていません。今後、添乗員も精神的、経済的に人並みの生活が維持できるような環境に育て欲しいものです。関西のエージェントはオプションツアー・車販・オフィシャルショッピング等売上げ重視の数字要求が目立ち、以前から比較すると本来の業務に加え販売利益もアサインの対象基準となる傾向があります。

エージェントの皆様、気持ち良く本来の添乗業務をさせて下さい!!! 年々お客様リピーターが増えわがままの方が多くなり、一方を立てれば一方が立たなくなる、そんなジレンマの狭間で毎日頭を抱えながら添乗を行っています。恐らくどの添乗員もご苦労されているのだろう、自分だけではないのだ、と自分に言い聞かせて今後も頑張ります。

つくづくナマ物を扱う仕事は大変だと痛感しながら、将来この経験が役立つことを信じつつねばり強く仕事をさせていただきます。

更に、次から次へと若者の同僚に刺激を得て、現代の流れに遅れないように自分自身も高められる点も捨てがたい魅力です。若者の生気を吸い取りながら妖怪と呼ばれないほどに切磋琢磨しながら東西奔走して参る所存です。



ルウェー / プリスクダル氷河観光

TCSA だより

旅行会社向け “派遣添乗員のキモチ”を発行



旅行に同行する添乗員の内、今やその大半を担っているながらその実態が余り理解されていない派遣添乗員の本音を旅行会社の方々に認識してもらうために、TCSAアクションプランの一環として、この度「派遣添乗員のキモチ」を発行しました。内容は、“長い勤務時間” “多様化する業務負担” “低い給与水準” “セクシュアルハラスメント” “よりよい添乗サービスを続けるために”の5つのパートで構成されています。各パート共代表的な事例が漫画仕立てとなっていて、更に実態数値などがグラフで判り易く編集されています。旅行会社への配布はTCSA会員会社が取引先に持参することが中心ですが、今後あらゆる機会に広範囲に配布し派遣先のみならず旅行客にも理解を深めていただくようにしていきます。

会員動向

正会員

退会

(株)キャスト(会員番号093号)
諸般の都合により

(株)トラジャルウエスト(103号)
諸般の都合により

クラブツーリズム(株)(072号)
旅程管理研修実施機関登録のため

(株)テラツーリストサポート(074号)
諸般の都合により

代表者変更(()内は前任者)

(株)トップスタッフ
代表者 御簾納エドワード(金子家治)

商号変更(()内は旧社名)
株式会社TEI(ツーリズム・エッセンシャルズ(株))

住所・電話・FAX変更

(株)ジェイティービーサポートインターナショナル
新住所 〒101-0045東京都千代田区神田鍛冶町3-3
神田大木ビル4階
新電話番号:03-3258-2671 新FAX:03-3258-2680

(株)ジェイティービーサポート中部
新住所 〒450-0003名古屋市中区南1-16-21
名古屋三井物産ビル2階
電話・FAX変更なし

(株)エスティーエス新潟営業所
新住所 〒950-0087新潟市大通1-7-10新潟セントラルビル9階
電話・FAX変更なし

業務休止

テテ(株)銀座営業所
諸般の都合により

賛助会員

退会

(株)日経カルチャー

代表者変更(順不同()内は前任者)

東急観光(株)
代表者 森貞夫(金子家治)

(株)タビックスジャパン
代表者 丸山明比古(内藤武人)

学校法人国際文化アカデミー
理事長 青木玲二(小林清)

日本通運(株)
代表者 川合正矩(岡部正彦)

DFSグループプリミティブマーケティングオフィス
代表者 マーティン・ジアルシート(堀川悟)

東京海上日動火災保険(株)
部長 川合至朗(小宮道夫)

住所変更

(株)タビックスジャパン
新住所 〒104-8535東京都中央区八丁堀1-2-8
新電話番号:03-6280-9000 新FAX:03-6280-9020

(((編集後記)))

当業界が直面する課題解決のためには派遣先である旅行会社の理解と協力が必須であるが、2カ年に亘るJATAとの定例協議会の討議を経て、この度JATAの旅行業経営委員会に「添乗員問題検討部会」が新設された。JATAに受け皿が設置されたことは大きな前進であるが、TCSAアクションプランの推進など自らが汗を流す時が来ていることも事実である。(T・S)

社団法人 日本添乗サービス協会

〒105-0011 東京都港区芝公園2-11-17 朝井ビル4階

TEL(03)3432-6032・FAX(03)3431-8698

E-mail tcsa@tcsa.or.jp

URL <http://www.tcsa.or.jp/>